



## 2022年度 相原地区 市政懇談会

### 次 第

[日時] 2022年11月8日 (火) 18:30~20:00

[場所] 堺市民センター ホール

司会進行： 市民協働推進担当部長 大貫 一夫  
相原地区連合町内会 会長代行 寺島 正雄

#### ○ 連合会長の挨拶

相原地区連合町内会 会長 渡代 真知子

#### ○ 市長の挨拶

町田市長 石坂 丈一

#### ○ 職員の紹介

#### ○ 市政懇談会について

#### 第1部 地域の議題に関する意見交換

##### 1 医療サービス拡充について

【保健所】 【子ども生活部】 【都市づくり部】

##### 2 交通網について

【都市づくり部】 【いきいき生活部】

##### 3 相原駅周辺整備について

【道路部】 【都市づくり部】 【いきいき生活部】

##### 4 自然環境とマッチした観光資源の開発について

【経済観光部】

##### 5 リニア中央新幹線開通に向けた町田市での取り組みについて

【経済観光部】

#### 第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

#### ○ 閉会の挨拶

閉会挨拶 相原地区連合町内会 会長代行 寺島 正雄

2022年度 相原地区 市政懇談会  
議事録(要旨)

[日 時] 2022年11月8日(火) 18:30～20:00

[場 所] 堺市民センター ホール

[出席者] 町田市長 石坂 丈一

いきいき生活部長 岡林 得生

保健所長 河合 江美

子ども生活部長 神田 貴史

経済観光部長 堀場 淳

道路部長 萩野 功一

都市づくり部長 窪田 高博

都市づくり部都市整備担当部長 平本 一徳

市民部市民協働推進担当部長 大貫 一夫

相原地区連合町内会長 ほか20名

事務局 市民部市民協働推進課 5名

市民部堺市民センター長

司会進行：市民協働推進担当部長

相原地区連合町内会会長代行

○相原地区連合会長の挨拶

○市長の挨拶

○職員の紹介

○市政懇談会について

## 第1部 地域の議題に関する意見交換

### 1 医療サービス拡充について

(1) 相原駅周辺に医療機関がありません。(特に小児科)

堺地区は、橋本駅近くの病院に行くことが多いので、子どもの医療証を相模原市との相互利用が出来るようにしてほしいです。

休日診療、夜間メディカルセンター、内科、皮膚科、耳鼻科、眼科等、最寄りの医療機関が橋本駅寄りにあります。予防接種、婦人科検診等を橋本タワーで受診できるようにしてほしいです。

(2) 東京医科大学八王子医療センターへのアクセスとして、八王子みなみ野駅から無料シャトルバスが八王子市と病院の連携で運行しています。大戸・武蔵岡・中相原地区から神奈中バスで相原駅へ行き、横浜線で八王子み

なみ野駅を経由する行き方は不便です。医療センターから相原駅西口へも無料シャトルバスが運行できるよう、町田市と医療センターで検討していただけることを希望します。相原駅まででは費用面で嵩むのなら、医療センターから法政大学でもいいです。距離が近いのでバス便の増便も望めると思われます。

## 【回答】

### 保健所長

予防接種についてですが、まず子どもの定期予防接種は、八王子市、日野市、多摩市、稲城市と2015年度から相互乗入を開始し、相模原市とは2018年度から相互乗入を開始しています。

このため、町田市民が橋本駅周辺の指定医療機関において接種を受ける場合には、特に手続きを行わなくても、無料で接種を受けることができます。

高齢者インフルエンザ予防接種は、市内医療機関190箇所で接種でき、この近隣ですと、相原町では4箇所、小山町では4箇所、小山ヶ丘では3箇所で接種できる体制となっております。また、八王子市、日野市、多摩市、稲城市とは2012年度から相互乗入を開始しています。

相模原市については制度の違いによる課題があり、相互乗入を行うことは現状では困難です。今年度でいうと、町田市民が高齢者インフルエンザ予防接種を行う場合、東京都の補助事業を活用することで、町田市、八王子市、日野市、多摩市、稲城市で接種を行う場合、無料で接種ができますが、相模原市民が相模原市内で接種する場合は1,500円の自己負担がかかるなどの違いがあるためです。

新型コロナウイルスワクチン接種は、基礎疾患を持つ方で町田市外に主治医がおり、その医療機関が新型コロナウイルスワクチンの接種医療機関である場合などは、市外医療機関の主治医の下でワクチン接種をすることができます。

婦人科検診等のがん検診につきましては、町田市医師会を通じて業務委託することで、受診される方が、市内の医療機関の中から選んで受診していただけることが可能な体制にしております。

しかし、乳がん検診につきましては、検査に特殊な機器が必要ということで、町田市内で実施できる医療機関が少ないため、町田市外の医療機関で受診できる仕組みを設け、利便性を図っているところでございます。

その中の一つとして、ザ・ハシモトタワー4階にあります「JA健康管理センターさがみはら」において乳がん検診が受診できます。

## 子ども生活部長

乳幼児・義務教育就学児の医療費助成制度、いわゆる「マル乳・マル子」の医療証提示による医療費助成は、保険診療の自己負担分を助成の対象とした制度となっております。

医療機関は、マル乳・マル子の医療証の利用を含む診療報酬を、各都道府県が契約した審査・支払機関に請求することとなっているため、町田市が独自に神奈川県審査・支払機関と直接契約することは、制度的にできないこととなっております。

東京都に対しては、町田市の地域性を考慮し神奈川県へ契約範囲を拡大する事を要望しましたが、東京都の審査・支払機関のみとしか契約できない旨の回答がありました。

引き続き、皆様にはご不便をおかけいたしますが、都外の病院を受診した際には、医療機関が発行した領収証を添付して、市役所の子ども総務課や各市民センター等の窓口、又は郵送にて医療費請求の申請をしていただきますようお願いいたします。

## 都市づくり部長

相原地区から東京医科大学八王子医療センターへのアクセスについてお答えいたします。

相原地区から東京医科大学八王子医療センターへのアクセスにつきましては、これまでも医療センターと協議してまいりましたが、無料シャトルバスの運行について現在実施する予定はございません。

また、八王子みなみ野駅からの無料シャトルバスにつきましては、八王子市と医療センターが連携して運行していることはない旨を確認しております。

地域から無料シャトルバスの運行に関する要望がございますことは、町田市からも医療センターにお伝えしております。引き続き、既存の路線バス及びシャトルバスなどのご利用にご理解をお願い致します。

町田市といたしましても、駅や商業施設、医療機関を含む地域内のアクセス手段について、地域協議会や福祉事業者の皆さまと、新たな地域交通の運行手法を検討及び実施しているところです。今後もこうした取組の推進につきまして、地域の方々のご理解、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い致します。

## 《質疑》

### 相原町大戸町会

保健所の出張所を相原に作ることは無理なのでしょうか。子どもが生まれたときに市の保健所まで来てくれと言われて、大変遠いのでちょっと不便だ

など思いました。車で行ったら保健所の方から車で来ないでくださいと言われたので、「こんなところまで赤ん坊を電車とバスで連れてこなきゃいけないのか」と言いました。今は駐車場があるからいいですが、そういうことが昔ありました。だから、相原の方にも保健所の出張所でもほしいと思います。コロナの時も対応が悪かったので、それを考えていただきたいと思います。

## 保健所長

保健所を相原に作る予定はございません。

今保健所で行っている乳幼児健診の集団健診は、健康福社会館と忠生保健センターと鶴川保健センターと小山市民センターで行っておりますので、そういった計画は考えておりません。

## (司会) 丸山町会

人口に合わせて設置するのでしょうか。

## 保健所長

特に基準はございませんが、子どもの施設については公共施設再編の中で切れ目のない支援ということで、子ども生活部の所管部分と保健所の母子保健部門とで統合した施設で支援ができないかと検討しております。またその中で一緒に検討できればと思います。

## 相原まちづくり協議会

地域内のアクセス手段について、新たな地域交通の運行手法を検討実施とのことですが、もっと具体的に教えていただけませんか。どういうことをやられているのか、抽象すぎて分からないのです。

## 都市づくり部長

現在、地域の方々と町田市内で7カ所、例えば福祉事業所や高齢者の施設はワゴン車を使って利用者の送迎をしております。こういったワゴン車を活用して地域の駅までの送迎や商業施設への送迎を地域の方々と取り組んでいるところがございます。今後活用できるような車両や人材、そういった諸々の手段を用いて、地域内の交通、地域で動けるような場を作れるよう交通事業推進課で検討しています。社会福祉協議会や高齢者支援センターなどで話し合いをし、地域の声を聞き取りながら、推進に取り組んでまいりたいと思っております。

## 相原街づくり協議会

私はそれに関わっていますが、ちょっと迫力に欠けます。会員制の買い物ツアーとかやっていますが、丸山団地の例を取りますと恩恵を受けているのが10人です。丸山団地は450人ぐらいいますが、10人だけの為に施設の車を使わせていただいています。乗っている方は非常に喜んでいますが、あと100人くらいは高齢者で困っている人もいます。もっと根本的なところで考えていただけないかなと思っております。是非積極的に、今福祉施設の協力をいただいている事業で、町田市がそんなに関わっているとは思えません。是非その辺はお金も出していただいて、もうちょっと環境を整えていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

### 相原元橋町会

項目2の後半の方で路線バスやシャトルバスを使っていたきたい、無料シャトルバスを考えていないというご回答だったと思いますが、今は法政大学から医療センターの方にあった定期バスがありません。ですから、こういった新しいバス路線の設置について町田市としてバス事業者さんへの働きかけを行い、赤字が見込まれるのであれば一部助成金を出すといった検討していただける余地はないのでしょうか。

### 都市づくり部長

法政大学から医療センター、相原駅から医療センターのバスルートにつきまして、2019年に八王子医療センターさんともいろいろ協議をしましたが現在の収入だけで運行するという事は非常に難しい状況です。当然のことながら、市の方で助成金、財源を投入しなければいけないということもありますが、コロナ禍による収入不足さらに一番は運転士不足ということがございます。これらの要素を検討した結果、非常に難しいという判断をしております。

### 相原町大戸町会

以前、その検討されたという話は聞いておりますが、それが中途半端になったままになっているように思えたのでこの場で質問しましたが、町田市さんとしては今後考えてないということでしょうか。

### 都市づくり部長

はい、医療センターさんにも費用の話はしましたが実際のところ収入と経費をしっかりと見た結果、やはり今現在では実施の実現は難しいということで、違った形で実施ができないかということを検討しております。

## 2 交通網について

(1) 相原駅から橋本駅方面へのバス増便を検討願います。

(2) シルバーパスの対象範囲を都内から橋本駅までの区間に拡大してください。

(3) 神奈中バスの「リーフィア町田小山ヶ丘 78系統」のバス停を、相原三叉路からロテングーデンに向かう道沿い（消防署の裏辺り）に新設してほしいです。現状では停留所が相原三叉路を超えて坂下まで歩かねばならず利用が不便です。

### 【回答】

#### 都市づくり部長

相原駅から橋本駅方面へのバス増便についてお答えします。

現在、当該バス路線を運行するバス事業者は、予てから抱える運転士不足の問題に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって大幅な減収となるなど厳しい経営を強いられています。その影響により、2020年10月以降、市内路線において減便が数度実施されるなど、現行路線の維持に苦慮している状態です。以上のことから、バス路線の増便につきましては難しい状況と認識しておりますが、いただいたご要望につきましては、バス事業者にお伝えしてまいります。

#### いきいき生活部長

東京都シルバーパスは、高齢者の社会参加を支援し、高齢者の福祉の向上を図ることを目的とした東京都の事業であり、シルバーパスの新規発行や更新手続等の事務については、東京都から指定を受けた一般社団法人東京バス協会が行っています。

町田市を含む都内の自治体では、住民の方への制度のご案内や広報等で東京都に協力をしています。

利用者負担額その他、シルバーパスを利用できるバス会社や区間についても、東京都が決めています。

東京都では、これまでも、シルバーパス制度のあり方や利用者実態についてのアンケート調査を都民に対して行っています。東京都によりますと、都県境を越えた路線についてシルバーパスを使えるようにしてほしいという要望は東京都にも寄せられており、課題として認識しているとのことです。

#### 都市づくり部長

バス停の新設についてお答えいたします。

バス停につきましては、路線の運行時間や便数、前後のバス停との距離や付近の交通状況などの要素に基づき、バス事業者が設置及び管理しております。

バス停の新設につきましては、運行時間や運行便数に影響があることや、バス停付近の事故を防止するために、設置可能な場所の要件が厳しくなってきていると聞いております。

いただいたご要望につきましては、バス事業者にお伝えしてまいります。

## 《質疑》

### 元橋町会

運転手不足について、日本全国いろいろなところで今自動運転化という国土交通省がITS事業というもので進めています。例えば、要は自動運転ですね。完全なレベル4といった自動運転はまだまだ先ですが、道路に動線を埋めて実証実験を行っているなどかなり進んでいますので、最初は国の補助金を使ってさらにその後は町田市さんが予算を作っていただきながら運行し、運転手を補うことも多分可能だと思います。当然お金がかかるので簡単にはいかないのはわかっていますが、そういったところも含めて検討していただければと思います。

### 都市づくり部長

先月、木曾山崎団地でワゴン車を使った自動運転の実証実験というものを約二週間、東京都住宅供給公社と群馬大学が連携して行いました。ワゴン車を使っても時速10キロちょっとくらいです。それを団地内で走らせて、買い物するお客様の支援を行った実証実験です。私ども職員も実際に乗車しました。先ほどレベル4というお話がありましたけれども、まだまだレベル2という段階です。今後ITを使った移動手段の発展も早いと思いますので、そういった分野につきましてもしっかりと研究して活用できるものについては取り組んでまいりたいと思っております。

## 3 相原駅周辺整備について

(1) 7月に町田市道路部による相原駅自由通路のエスカレーターを上り専用にするためのアンケート調査が実施されました。現在は16時に上り下りの切り替えが実施されています。切り替えについては10年ほど前に地域の要望で実施したのですが、今回のアンケート調査の意見では上り下りの2本設置を希望するものが大多数でした。この結果をどのように反映していくのか、上り下り双方向の設置を求める地元の声に市としては、どのように考えておられますか。

(2) 西口の一般車両一時停車スペース新設を要望します。朝夕や雨の時の送り迎えの車の混雑混乱を解消するためです。

(3) 相原駅東口の開発の進捗状況を教えてください。

## 【回答】

### 道路部長

「3 相原駅周辺整備について」お答えします。

(1) 2022年7月に行った「相原駅自由通路のエスカレーターの運用に関して」のアンケート調査につきましては、ご協力いただき、感謝申し上げます。

このアンケートは、時間帯によって上り・下りの切り替えを行っている運用を上り専用に変更することについて、地元や駅利用者の方々からご意見を伺う目的で行いました。

結果につきましては、Web回答が397件、紙回答が115件の合計512件頂き、上り専用に変更することについての設問では、回答者の6割が賛成で、4割が反対でございました。

今後の運用方法につきましては、アンケートや利用者数の調査結果などを踏まえて、現在の16時から上り下りを切り替える運用方法を継続してまいります。

また、アンケートの中では、自由意見として、上下両方のエスカレーターを望むご意見も多く頂きました。

自由通路にエスカレーターを増設することにつきましては、自由通路に新たな荷重が加わるため、本体の補強など、大規模な改修が必要になると思われますので、将来的な自由通路の改修も踏まえて課題とさせていただきます。

(2) 西口の一般車両一時停車スペース新設についてお答えいたします。

相原駅西口駅前広場は、駐車禁止の交通規制があり、一時停車スペースを設けると、禁止している駐車を誘発することとなるため、設置できないと警視庁から伺っております。

駐車禁止の交通規制は実施されておられませんので、交通ルールを守ってご利用いただきたいと思いますと考えております。

### 都市づくり部都市整備担当部長

相原駅東口の開発につきましては、東口周辺の地権者の皆様で構成する「相原駅東口まちづくり検討会」とともに2020年に策定した、「町田市相原駅東口地区まちづくり構想」に基づき、現在、駅前広場に接する街区の

再編に向けた検討や、町田街道から駅東口を結ぶ新たなアクセス路の整備等の取り組みを進めております。

先ず、駅前広場に接する街区再編に向けた検討の進捗状況につきまして、「相原駅東口地区まちづくり構想」で示す「駅前地区としての拠点形成」を図るため、現在、町田市から駅前広場に接する街区の地権者の方々へお声掛けさせていただき、街区の一体的な土地利用や施設整備に向けた検討をはじめたところでございます。

今後も引き続き、地権者の方々と検討を進め、地域の皆様や駅を利用される方へお伝えできる内容が整理できましたら、「相原駅東口まちづくり検討会」とも相談し、説明会や意見交換の場を設けてまいりたいと考えております。

## 道路部長

次に、道路部からは道路整備の進捗状況についてお答えします。

現在町田市では、幅員12mと幅員6mの駅東口へのアクセス路及び、相原駅東口駅前広場の整備事業を進めております。

アクセス路の整備内容としましては、平面図の黄色に着色した1工区と緑色に着色した2工区が、両側に2.5mの歩道を設置した12mの道路であり、商業機能やにぎわいを創出できるように電柱のないゆとりある歩行空間を確保してまいります。

赤色に着色した3工区は、大戸立体側道と地域内を連絡する6m道路として、既存の道路を拡幅してまいります。

進捗状況としましては、2020年度から用地取得に着手し、2022年10月1日現在の用地取得率は全体で約31%です。

今後の予定としましては、1工区については用地の取得状況を勘案しながらとなりますが、2024年度の工事着手を目指しております。

2工区、3工区につきましても、引き続き用地取得を進め、2026年度からの工事着手を目指してまいります。

また、相原駅東口の駅前広場につきましては、今年度にJR東日本(株)から用地を取得する予定でございます。

その後、2023年度から設計を進め、2025年度の工事着手を目指してまいります。

## いきいき生活部長

相原地区の皆様にはおかれましては、日頃から市の高齢者施策にご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございます。とりわけ、市が計画して建設を行った特別養護老人ホームは市内に23施設ございますが、その内、相原

地区内には3施設開設しております。改めて、皆様のご理解、ご協力に感謝申し上げます。

高齢者の方が入所・入居する施設については町田市や東京都が計画して建設を進める施設と民間事業者の計画により建設する施設があります。

これらの違いは、市や都は3年ごとに事業計画を策定して、計画的に施設の建設を行いますが、民間事業者は土地や資金の調達等の条件が整った時に、施設建設を行っているということです。

市や都は、高齢者の方が入所・入居する施設について、相原町では2013年4月以降開設していません。「最近、相原町に老人ホームなどが多く建設されている」という事ですが、ご質問のとおり、今年に入り中規模の新たな施設が1月と4月に1施設ずつ開設しています。

また、現在建設中の施設もございしますが、これは来年2月に開設予定と聞いています。これらの施設は、民間事業者が計画・建設しているものであり、市が建設をお願いしているものではございません。

現在、高齢者の方が入所・入居する施設は市内全体で138施設あります。このうち、相原町に開設している施設は、市内全体の7.2%に当たる10施設となっています。

高齢者人口の増加は今後も続くため、高齢者の方が入所・入居する施設の需要は高まると考えられます。このため、民間事業者の計画によって建設される施設は、市内全体で増加していくものと見込んでいます。

## 《質疑》

### 相原街づくり協議会

相原駅東口開発について東口に旧駐輪場がありますが、駅の方から旧駐輪所までは町田市の用地ですよね。この後の質問にもありますが、橋本にリニアが来ます。駐輪場の跡地を含めた周辺を開発していただければありがたいなと思いますので、一つご検討よろしく願いいたします。

### 都市づくり部都市整備担当部長

東口市営駐輪場とあわせて、線路沿いにも町田市の用地があります。線路沿いの市有地は現在堺市民センターの臨時駐車場として利用しておりますので、用地の利活用は慎重に検討する必要があると市は考えております。

今後、東口の駅前広場街区の一体的な土地利用の検討と併せて地域や駅利用者の声を伺いながら、最適な活用方法を検討してまいりたいと考えております。

## 相原まちづくり協議会

高齢者の入所・入居施設ですが、道路が広くなり跡地ができると必ず老人に関する施設に変わっていくような気がします。もっと賑わいのある街づくりを目指していますので、町民としてはなんかがっかりします。

これは許認可が無いから、どんどん業者が建てているものなのでしょうか。もっと市が監視するべきではないかと思っておりますので、ご検討いただければと思います。

我々はもっと子どもたちが安心して生活できるまちを夢に描いています。そのために緑は残っていますし、そういう意味では老人ホームができて相原の緑は全く有効活用されません。もっと子どもたちが楽しめる、子どもが増えて賑わいのあるまちづくりをしていきたいと思っておりますので、是非その辺も頭に入れていただきたいと思います。

## いきいき生活部長

ご質問の主旨は大変理解できるところでございます。土地が空いたところに老人施設が建つことが多いのではないかとということですが、市が建てることを規制することはできません。市が規制できるのは、先ほどの説明の前半で申し上げた、都や市が計画的に行っている部分について、その数量を規制していくことができますが、そうでないものについては、ここに建ててはいけないということは、言えない状況がございます。老人施設は、今社会の中で非常に必要な施設であるため、そういった面でも見ていただければと思っております。

## 相原街づくり協議会

老人ホームの開発等については民間の民民の問題だという話がありましたが、大規模な開発につきましては街づくり協議会があるはずですが、そうしますと、その地区においては過剰気味な施設の開発について協議会で協議していく、あるいは申し入れをしていくということは原則可能だと思います。老人ホームはその対象にならないということですか。

## 町田市長

少し原則的なことを話した方がいいかなと思います。先ほどこちらの方で東京都が管理しているものとそうでないものがあると申し上げました。当然、東京都が管理している施設利用者は介護保険料を払っており、それを運営の財源として投入しています。あるいは通常の介護、例えば、特別養護老人ホームは介護保険と市の税金等の法的な財源で運営されています。特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、認知症グループホームというものがあり

ますが、これもみんな税金が入っていてしかも介護保険が入っています。つまり、公的資金で運営されています。

今規制がないと申し上げたのは、公的資金で運営されているものではないのです。つまり住宅です。住宅型のもので高齢者の入る施設の場合は有料老人ホームと呼ばれています。有料とは個人のお金で入ってもらうことです。したがって、個人がお金を払って法人が住宅を建てたところに入ることについて、規制するいわれはありません。お金を払って税金を負担しているわけではないので、そこで区別されています。

今建設ラッシュということですが、建てられているのは有料の個人のお金で民間高齢者向け住宅に入っているケースであるため規制のしようがありません。もちろん、建築基準法や土地都市計画法などそういった建築に関わる規制に当然引っかかっているのであれば規制対象です。つまり、皆さんがご自宅を建築する時と同じ条件です。税金が入るか入らないか、介護保険が入るか入らないかで分かれるということをご理解いただきたいです。

## 道路部長

違う側面からもお話します。都市計画の話から先ほど新しい道路を作ると、老人ホームになるケースが多いということでありましたが市としてもこの新しい道路を作るところについて、建てられる用途、今までが第一種低層と住宅以外はというような用途だったものを、今東口につきましては近隣商業として、少しでも賑わいの施設を誘導しようという手だてを取りながら進めています。ただ、その近隣商業の中にも住宅が建てられます。したがって、老人ホームの建設の規制はできませんが、賑わいのある施設も入れるように、市としては誘導しています。

## 4 自然環境とマッチした観光資源の開発について

八王子市に近接する相原や小山地区周辺には緑（森林等）が多く、自然環境とマッチしたテーマパーク等の観光資源の開発余地があると思われます。

近隣都市と連携した観光資源の発掘により、直接的にはリニア沿線の中京圏・信州・山梨（将来的には阪神地区）からの観光客の呼び込みが期待できます。具体的には、大きなアトラクションや乗り物があるパークではなく、今年11月に愛知県で開業するジブリパークのような自然環境とマッチしたテーマパークが望ましいと思われます。また、既存の観光地（高尾山や相原・小山地区の文化的遺産他）とのアクセスの良さをアピールする周遊ルート（観光バス便）の開拓等も検討できるのではないのでしょうか。町田市の考えをお知らせください。

## 【回答】

### 経済観光部長

議題4の自然環境とマッチした観光資源の開発についてお答えします。

まず、相原まちづくり協議会の皆様をはじめ、地域の皆様には地域の魅力を発見し、磨き上げを行う町田市の「観光まちづくり」にご尽力いただき、ありがとうございます。

これまで、まちだ〇ごと大作戦にも参加いただいた「竹あかりの街 あいはら」では竹灯籠を相原駅前や相原中央公園で点灯し地域の賑わいを見せていました。他にも、あいはら夜祭りの開催やストリートピアノの設置、SLの活用など人が訪れる場が数多く創出されてきました。

このように、相原地区には独自性に富んだ観光資源が既に多数ありますので、これらの磨き上げを引き続き皆様と協働で行っていきたいと思っております。

そして、自然環境とマッチした観光資源としては、風景を楽しみながら歩くことがきる「フットパスコース」が相原地区には複数存在しております。コースには、草戸山を通るコースや高尾山口に至るコースもございます。これらのコースを通じて、多くの人に相原地区にある豊かな自然や歴史、文化を楽しんでいただきたいと思います。

また、既存の観光地とのアクセスの良さについてアピールする方法としては、観光バス便の開拓だけでなく、先ほど紹介した高尾山口まで歩くことができるフットパスコースのアピールや高尾山のある八王子市と連携した取組みについて考えて参りたいと思います。

《質疑》なし

## 5 リニア中央新幹線開通に向けた町田市の取り組みについて

リニア中央新幹線開通に向けた町田市の取り組みについてお聞きします。

東京都と連携した企業誘致に向けた開発計画の有無です。具体的には、都心が直下型地震等で壊滅状態になった場合のリスク対策として、橋本駅周辺に本社のバックオフィス機能を持たせるための、工業団地の開発や進出を促す税制面での優遇措置等は検討されているのでしょうか。また、リニア中央新幹線開通による都心や名古屋へのアクセスの利便性を発揮でき、周辺の自然環境にも悪影響を与えない開発部門等の誘致は検討されているのでしょうか。

スタートアップ企業に特化した工業団地を橋本駅周辺の相原・小山地区で開発することにより、新規技術の集積地化を図るとともに、町田市民の就業機会の拡大を図ることが可能かと思っております。また職住近接の環境整備によ

り、これから望まれるSDGsを実現し、町田市の一層の発展を図るチャンスが来ると思われます。よろしく申し上げます。

## 【回答】

### 経済観光部長

議題の5「リニア中央新幹線開通に向けた町田市の取り組みについて」に、お答えいたします。

リニア中央新幹線開業に伴う橋本駅周辺の開発は、首都圏南西部に多くの人を呼び込むきっかけとなり、町田市にとっても大きなメリットがあると認識しております。

この橋本駅に近い、相原・小山地区は、東京都や町田市の計画において、多摩境駅周辺を中心に、都市産業の集積の促進や、さまざまなイノベーションが生まれる都市拠点として位置付けており、大変重要な地域であると考えております。

現在、「東京都と連携した企業誘致に向けた具体的な開発計画」はございませんが、市では、企業進出を促す税制面での優遇措置等として、「町田市企業等立地奨励金制度」がございます。

この制度は、市内の全域を対象に、工場や研究所、事務所などの事業所を新規に立地、または増設を行う企業などを対象としております。

対象経費といたしましては、一定の条件の下、事業所の建設費などのインシヤルコストや固定資産税などの相当額を交付しています。

また、町田市民の就業機会の拡大を図るため、この「町田市企業等立地奨励金制度」を利用した企業が市民を新たに雇用した場合、「市民雇用奨励金」を交付しております。

相模原ICの開通などにより利便性が向上した圏央道や、リニア中央新幹線の開業による開発の機会を適切にとらえながら、東京都と連携した企業の誘致を検討してまいります。

## 《質疑》

### 相原まちづくり協議会

昨年度、市長からビデオ祝辞をいただきました。相原の夕焼け小焼けの歌詞生誕100年で、これが2018年でしたが2019年に石像を建てる事ができました。ありがとうございました。八王子市からも相原は夕焼け小焼けの街ということで、音楽祭に招待を受けるまでになりました。

そこで一つお願いがございます。全国で学校が終わって帰る時刻になると、夕焼け小焼けが採用されていることが多いです。せっかくなので、小学校下校時には是非夕焼け小焼けを町田市全域で流せるようにご検討いただきたいと思います。

## 大戸町会

堺市民センターの駐車場へ入るところの町田街道の歩道のところの切り下げがきついで、もう少し直していただきたい。

## 市民部市民協働推進担当部長

この道路は東京都の南東建が管理しているので、道路部と南東建とで調整をしていきたいと思います。

先ほど夕焼け小焼けについては、4時半の下校時に防災行政無線で流したいということかと思いますが、防災安全部が無線を管理しているので、そちらに伝達します。

## 第2部 市政全般に関する意見交換

### 市長からの市政報告

まず新型コロナウイルスの関係です。このところ増えてきていますが、感染が少し収束しました。お店を含めて地域の方のご協力をいただかないと感染が収まりません。相原地区の町内会の皆さんをはじめとして感染拡大防止をしていただいたことについて、改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

2点だけ報告をいたします。まず中学校給食の件です。中学校給食センター整備を3カ所行うとあるのですが、この中に武蔵岡中学校と堺中学校は入っておりません。武蔵岡と堺については大戸小学校の給食施設を拡充して、そこで給食を作ってトラックで運びます。小山中学校は忠生に給食センターができるので、そこから小山中学校に運びます。衛生管理のルールにより、作ってから30分ないし、40分の間に運ばなければいけないので、忠生の給食センターから武蔵岡中学校と堺中学校に運ぶのは難しいということでございます。

もう一件だけお話をしなければいけないのが熱回収施設の進捗です。今年1月に新しい清掃工場がスタートいたしました。一方の資源ごみ処理施設は相原に事業認可も取れていますので、2025年度中にはなんとか新しい資源化施設ができる計画です。ただし、この計画はもう一カ所上小山田で計画していますがこっちはなかなか進んでいません。用地交渉は2025年度までにできないということがはっきりしました。今から用地買収では間に合いませんので、相原や民間など他のところにビンとカンの処理をお願いすることになります。小山田で処理する半分を相原、半分は上小山田となりますが、上小山田では処理ができないので、その分は民間に頼む予定です。全体としては2025年度ないし、2026年度に小山田のビンカン処理施設を止めることとなります。もともと計画では、それぞれ半分の地域の処理しかな

いことになっています。その計画通りの施設ができませんので、残りの処理ができません。その分は民間に頼む予定です。そうすると地域全域が2026年度から開始できると思います。

プラスチックごみも全部分別になります。今、南地区だけが分別になっていますけど地域全域でプラスチックごみが分別収集になります。2026年度には全市分別を予定しております。

保健所について解説いたします。保健所は八王子市と町田市しか自前ではありません。他は全部「東京都立保健所」です。例えば、隣の多摩市は東京都の保健所が運営しています。都立だと市内の誰が感染して誰が自宅療養しているかわかりません。東京都の保健所が情報を流さないと市として支援のしようもないです。ところが、町田市は市が保健所を運営しているので全部把握しています。保健所が市内にあるというのは非常に大きな、我々市民にとっては力になっています。

もう一つ、実は医療は都道府県単位の事業です。医師会や協会の人たち、診療所の人たち、病院の人たちは東京都と国を向いています。国では中央の医療審議会が医療点数等を決めています。それから新しい病院の建設については、病床数規制というものがありますがそれは東京都で決めているので町田市に権限はありません。したがって、医療関係は都道府県で線が引かれています。支払金や保険点数や三次救急のサービスエリアなどは都道府県単位で異なります。そのため、隣の相模原市と制度が違います。そこはご理解をいただきたいと思っております。

《質疑》なし

## ○閉会の挨拶

相原地区連合町内会長代行